

「北部九州自動車100万台生産拠点化」 に向けた取り組み

北部九州に、東アジアにおける
自動車生産の一大拠点を構築する

【目標】(15年度～19年度)

自動車の年間生産100万台

関連企業 50社誘致

地場企業の自動車産業への参入
促進

効果

雇用創出 1.3万人

経済波及効果 2兆円

生産拠点化のための施策

【関連インフラの整備】

- ・道路網、港湾等の整備
- ・工業用水の確保
- ・工場用地等の確保

【地場企業の参入促進】

- ・生産管理、生産技術の向上支援
- ・関連メーカーとのマッチング、取引斡旋

【人材育成・雇用創出】

- ・労働力の確保、人材育成

【企業誘致の強化】

【東アジアとの国際分業体制の構築を 探るための調査】

自動車メーカーの生産状況(4輪乗用車)

区 分	16年度	17年度 (見込み)	備 考
日産九州工場 (福岡県苅田町)	51万台	40万台 半ば	・日産自動車の国内最大拠点 ・累計生産1,000万台突破
トヨタ自動車九州 (福岡県宮田町)	25万台	29万台	・生産能力増強(43万台) ・エンジン工場新設(福岡県苅田町)
ダイハツ車体 大分(中津)工場 (大分県中津市)	4万台	17万台	・国内最新鋭工場
合 計	80万台	約90万台	

乗用車を年間100万台以上生産している国は、世界で13ヶ国のみ

自動車産業を支える中核的人材の育成

- 産学官の連携による人づくり -

豊富なものづくり人材

32の大学（うち理工系学部を有する大学は13）

*理工系の学生数は全国2位（国立大）

3つの高専（国立工業高等専門学校）

23の工業系高校



これらの集積を活かし、産学官の連携による様々な事業により、自動車産業を支える人材の育成を図っている

自動車関連金型中核人材育成プログラム

大手自動車関連企業OB等の派遣による生産管理体制の改善支援（福岡ものづくり産業振興会議）

高校生ものづくり技能育成（県立工業高校等へ高度CAD人材育成プログラム導入）

工業高校等を対象としたインターンシップ（インターンシップ1,000名、受入企業400社）

ものづくり人材育成（福岡県若年者仕事サポートセンター事業）

【自動車産業を支える中核的人材の育成】

自動車関連金型中核人材育成プログラム

中核人材像 3次元デジタル設計から先端加工まで対応でき、
課題解決力と提案力を併せ持つ生産現場の中核人材

中核：・九州工業大学 情報工学部 先端金型センター

特徴：・北部九州の大学教授陣（九州工業大学、北九州市立大学、熊本大学、日本文理大学、

大分県工科短大）と先進金型20社の技術部長級による実践教育

- ・日本初の企業間インターンシップ
- ・北部九州金型関連の中堅・中小企業約100社が参加

規模：・総額 2.4億円 / 3年

・育成者 150名 / 3年

・講座数 7講座 / 年

カリキュラム

(自動車関連金型中核人材育成プログラム)

特徴・・・数値データによる設計・加工・解析を実践教育で実施

1. デジタルエンジニアリング (7講座)

- (1) 解析技術基礎講座
- (2) 新加工技術講座
- (3) プラスチック金型デジタルエンジニアリング講座
- (4) 鋳造金型デジタルエンジニアリング講座
- (5) プレス金型デジタルエンジニアリング講座
- (6) 鍛造金型デジタルエンジニアリング講座
- (7) CAD/CAM実習講座

2. 企業間インターンシップ

北部九州地域の大手自動車メーカー・関連企業へ
地元中堅・中小企業の技術者を派遣し、OJT研修を実施

『福岡水素エネルギー戦略プロジェクト』

環境にやさしい水素エネルギー利用社会の実現に向け、全国に先駆けて「福岡水素エネルギー戦略会議」を設立。研究開発、実証活動、人材育成を進め、世界を先導する研究開発拠点を形成する。

企業ニーズに基づいた研究開発支援

水素の**生成**、**貯蔵・輸送**から**利用**まで一貫した研究開発プロジェクトを推進

九大水素利用技術研究センターの強化による世界的な開発拠点の実現

実証活動支援

九大水素キャンパスを水素利用ミニモデル社会として実現

豊富な副生水素等産業インフラを活用した北九州エコタウン地区での実証

福岡水素エネルギー戦略会議

〔中核組織として全国有数の企業、大学、行政で組織 会員 221 企業・機関〕

設立：平成16年8月3日

会長：新日本製鐵(株)

羽矢代表取締役副社長

副会長：トヨタ自動車(株)

渡邊専務取締役

九州大学

有川副学長

人材育成

平成17年10月

10月には「**福岡水素エネルギー人材育成センター**」を開講

調査提言・情報交流・普及啓発

規制緩和等を提言

「**福岡水素利用技術研究開発特区**」

セミナー、展示会の開催

福岡のポテンシャル

- 水素利用技術の研究開発で唯一、文部科学省の「21世紀COEプログラム」に採択された九州大学の世界を先導する知的資源
- 九州大学新キャンパス(水素キャンパス)や北九州エコタウン地区における実証フィールド
- 新日本製鐵、三菱化学、三井鉾山など大量の副生水素を発生する企業の集積
- 産業化を実現するための多様な製造業の集積

研究開発

福岡水素エネルギー戦略会議では、「九大水素利用技術研究センター」を核として水素生成、貯蔵・輸送から利用まで一貫した研究開発・実証活動を推進していく

会員企業、大学等による共同研究の実施(実用化研究、育成研究)

8つの研究分科会活動

水素社会システム実証検討

安全評価検討

高圧水素下における機械要素研究

高効率水素製造研究

水素燃焼特性研究

高圧水素貯蔵・輸送研究

燃料電池要素研究

シミュレーション研究

実証活動

・九大新キャンパス及び北九州エコタウン地区での実証活動

【国等の助成事業を活用した主な研究開発事業】

文部科学省	21世紀COEプログラム	水素利用機械システムの統合技術
経済産業省	地域新生コンソーシアム	コンプレッサーレス高圧水素製造装置の研究開発
NEDO	固体酸化物形燃料電池システム技術開発	固体酸化物形燃料電池の耐被毒長寿命化技術の開発

平成17年度:地域新生コンソーシアム(経済産業省) などに9テーマ提案中

目標:「5年間で100億円規模の研究開発」

福岡水素利用技術研究開発特区

- 全国初となる水素利用技術研究開発特区 -

認定：平成17年3月28日

対象地域：九州大学（箱崎キャンパス、元岡新キャンパス）

内容：

高圧ガス保安法の規制のうち、水素利用技術の試験研究で使用する小型圧力容器（内容積400ml以下、圧力100MPa以下）について、製造する都度必要とされる耐圧試験及び気密試験を適用から除外。両試験に要する多くの手間と時間を省き、研究開発のスピード化を図る。

実証活動

九大水素キャンパス



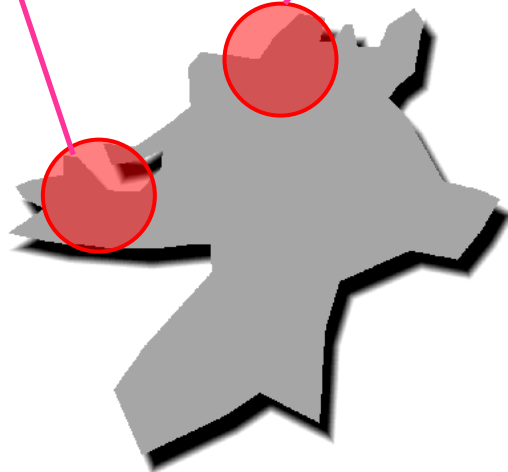
北九州エコタウン



目標
実証活動
20テーマ
(5年間)

- ・九大水素キャンパスの実現
- ・高圧水分解水素製造実証
- ・燃料電池車の走行
- ・学生寮での燃料電池実証など

・副生水素を利用した実証



人材育成

～ 全国初の水素関連技術者養成機関～

平成17年10月開講

福岡水素エネルギー人材育成センター

- 技術者養成コース -

特徴

- 水素の特性から利用、安全までの幅広い講義と実践的な実習
- 水素利用技術で全国唯一、文部科学省の21世紀COEプログラムに採択されている九州大学を中心とした一流の講師陣

対象

水素エネルギー関連企業や新規参入する企業の技術者

期間: 5日間(講義3日、実習2日)

人数: 15名/回(年3回程度開催)

- ビジネス展開コース -

目的

水素エネルギー社会の実現に向けた動きの中で、ビジネスチャンスをつかむ企業を育成する

対象

水素エネルギー関連ビジネスへの参入を目指す企業の経営者

期間: 1日間

人数: 30名/回

アピール

- 1 地域のを引き出すクラスター政策の推進
- 2 基礎教育重視と、優秀な外国人研究者を含む高度人材確保対策の推進
- 3 実用化目標を明確にした産学官共同研究（ターゲットドリブン型）の推進
- 4 実効性のある知的財産戦略の確立

ご清聴
ありがとうございました



福岡県知事 麻生 渡